

野槌

胸

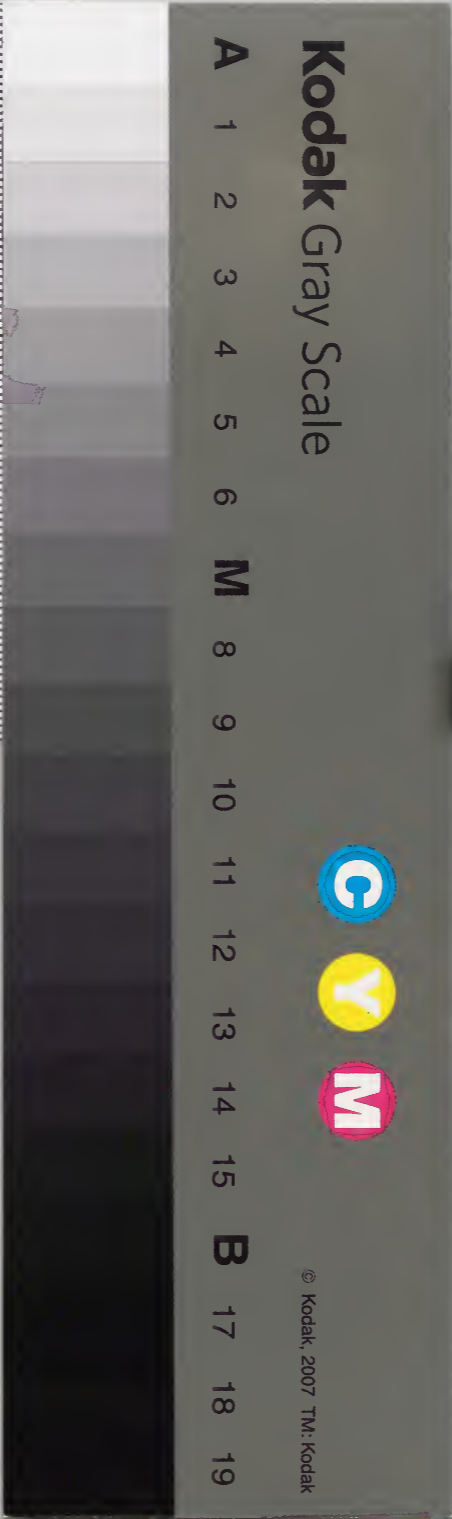
| | | | |
|-------|----|------|-----|
| 太政官文庫 | | | |
| | | 三二〇三 | 和書門 |
| | | 三八九 | 類 |
| 一三 | 冊架 | 函號 | |

| | | | |
|------|----|------|----|
| 內閣文庫 | | | |
| | | 三二〇三 | 和書 |
| | | 一三九 | 類 |
| 二〇三 | 函架 | 冊號 | |

上七

共十三

| | |
|------|----------|
| 內閣文庫 | |
| 番號 | 和 32039 |
| 冊數 | 13 (7) |
| 函號 | 203 146 |



期^ゴも^イ一刹那^{セツナ}の^イち^イを^イひ^イて^イ懈怠^イは^イら^イず^イ
つれづれを^イ志^イす^イん^イや^イらん^イぞ^イと^イ今^イれ^イ一^イし^イを^イ
を^イい^イて^イさ^イら^イに^イも^イた^イる^イの^イ甚^イき^イも^イ也^イ

中庸子曰射有似乎君子失諸平鵠^{コウ}
及求^{カテム}諸其身^ニ孟子盡心上木匠不為拙工改廢繩墨^{コウ}
羿不為拙射^セ變其^{コウ}鼓率^{コウ}君子引而不發躍如也中道而^ツ
立能者後之

莊子田子方篇列御寇為伯昏無人射引之盈貫措杯^{カニ}
水其肘上發之適矢復沓方矢復寓當是時猶象^{カニ}
人也口義云引之盈貫用弓而至滿也前手直而肘平^{カニ}

可以致^{シテ}不^ス血^ス水^ヲ於^ニ其^ノ上^ニ言定也發射也適去也沓重也又^{カニ}
也^{カニ}矢^{カニ}方^{カニ}去^{カニ}而^{カニ}矢^{カニ}又^{カニ}在^{カニ}絃^{カニ}上^{カニ}沓^{カニ}於^{カニ}弦^{カニ}上^{カニ}者^{カニ}絃^{カニ}去^{カニ}而^{カニ}方^{カニ}未^{カニ}去^{カニ}矢^{カニ}
又^{カニ}寓^{カニ}於^{カニ}弦^{カニ}上^{カニ}矣^{カニ}此^{カニ}言^{カニ}前^{カニ}接^{カニ}下^{カニ}箭^{カニ}如^{カニ}此^{カニ}其^{カニ}神^{カニ}速^{カニ}也^{カニ}象^{カニ}人^{カニ}
木^{カニ}偶^{カニ}人^{カニ}也^{カニ}

道^{カニ}を^{カニ}学^{カニ}ぶ^{カニ}し^{カニ}る^{カニ}人^{カニ}論語里仁篇朝聞道^{カニ}
死^{カニ}可^{カニ}笑^{カニ}と^{カニ}い^{カニ}ひ^{カニ}朱^{カニ}文^{カニ}公^{カニ}勸^{カニ}学^{カニ}文^{カニ}勿^{カニ}謂^{カニ}今^{カニ}日^{カニ}不^{カニ}
学^{カニ}而^{カニ}有^{カニ}來^{カニ}日^{カニ}と^{カニ}い^{カニ}ふ^{カニ}義^{カニ}に^{カニ}由^{カニ}て^{カニ}也^{カニ}
一刹那^{セツナ}一彈指頃^{トウタンシキョウ}五刹那^{ゴセツナ}

木偶人

物を賣る者あり。買人明日そのあつひとや
 してぐいをやらんとす。牛のものは牛死
 うんとしる人利あり。うんとしる人
 損あり。とてうら人あり。是れ中かうら者
 此牛乃あり。銭は換きとす。又大なり利
 あり。そらぶ生あるもの死にちつた事。知
 事。うら既にうせ。人又なる。うらうら
 牛の死。うらうらうら。うらうら。うら
 日の命。牛金。うらうら。牛はあつひ。我毛
 うらも。牛。牛金をうらうら。一銭を失う人。

損あり。とてうらうらうら。うらうら。うら
 牛はあつひ。限。うらうら。又うらうら。人死
 をうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 なたのうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 ちうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 めげ財。うらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 ぐらうら。志満。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 ます。うらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 めうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら
 たらうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。うら

死の近事をわらうとせ。又生死の如
くあつてはいつて實の如きものなり
とていつて人いふもあざむき

牛をうらもの 史記貨殖傳。烏氏倮畜牧及流

行賣畜至用谷量馬牛任氏力田畜人爭取賤買任氏
獨取貴善橋兆致馬千匹牛倍之

貨殖傳の如く牛をうらむと賣
買しつては下より甚多の牛をうらむ
を。驢倍といふ

一日の命 大智度論曰。設滿世界無有直

身余

鵝毛といふも 司馬遷報任少卿書人固有死

或重於太山或輕於鵝毛

死をにくらばば 孟子告子篇生亦我所欲死

亦我所欲也

生死は相はあつては 釈氏ハ不生不滅を

涅槃とす。生死即涅槃といふ。根来は聖憲

乃ハ識田中。阿字一カ生死亦断涅槃

断といひ。花が死は生大なるも変ら

しり下まじりあり

箱コれらありて紙シをつくる事。づつとては
け付るべきさきあり有コ織シの人タは多タ子シ付ケ
まじり軸チよつて表紙シはく事。西セ院シ
禮レらざれば難シなり。又の紙シはかりハ右ミ
よほく。箱コよつて軸チよつても常ツ事シ
也とねほきしなり

軸チとた表紙シと右ミ也昔コのふ紙シは物モノ

かどのやうに付るものとんまあり紙シ一シ
ありたちのらんをくまきしとまよ一シ結スい
しとまよ也結スいなり付るものとんま

めれもみとつるあり。くらんよとんま
人タのれをまみり付ぬれば則シいぬとぬん
まのそをくぬし

めかのみと 和名集。本草注云。葉耳。一名手負シ未シ

葉シ音シ子シ和シ
名シ。奈シ毛シ羨シ

今シ俗シ。稀シ茶シ

子其所殉貨財也。俗謂之小人其殉匹夫適人之適而不自適其適。雖盜跖与伯夷。是同為淫僻也。余愧乎道德。是以上不敢為仁義。操而下不敢為淫僻。行也。曰馬蹄篇。毀道德以為仁義。聖人之過也。曰勝筵篇。攘棄仁義而示下。德始至同矣。

僧は法あり 源氏物語の 吉祥の女法師の

維摩經云。法不可捨。而况非法。止觀云。觀法無正。

着心同邪。惠能曰。心迷法華轉。心悟轉法華。

傳教大師曰。雖讀法華經。還死法華心。

虱は鷄衣にあらば。介由小虱ももぐ。人比力

小生して血食し。前は我壙をうがら。衣袂相食

よむらもぐ。六やづら。盜賊の人をさる。婦女財

室をうら。國をむ。財をうら。入て。人乃

利。物をはり。わら。ひさ。ん。物。の

て。物。を。は。り。わ。ら。ひ。さ。ん。物。の

者。に。仁。義。と。僧。の。法。と。は。鼠。盜。財。也。異

る。よ。わ。ら。ひ。さ。ん。物。の。は。り。わ。ら。ひ。さ。ん。

みる仁義をあらまはすは軍也項羽のせ率此を
 かぞ血をとり婦人の仁也古今我のほ
 幾に事也とらるる義の義也俗儒の仁義と
 よし事也とらるる得ても名母か
 跡母らるる者もあり
 じ俗儒も仁義のほ
 仁義よりわたりて仁義と行ふあり
 性善の理のまに
 悪しう時もあり
 やしう天より生れはくおの性られし毛れ

はり増減しる事
 利益こそ
 を道とて仁義の人の情よありし
 或は不思善不思悪といひ善悪不二
 如といひ或は善を
 悪を
 なしせむ
 よんを
 こころを
 いやし物

福^シと道^{ミチ}好^{コト}が詞^{コト}はにあり病^{ヤメ}あり。けくわきま
 あり。とんぬ人^{ヒト}をうごころる。魚^{イサ}の
 或^シ本^{ホン}に財^{ザイ}よ小人^{コノヒト}あり。仁^ニ義^ギ小^コ君^{キミ}あり。法^{ホウ}は傳^{デン}
 あり。とかけの。魚^{イサ}好^{コト}が詞^{コト}を。とんぬ。とて。うんお。て。
 かくあり。とめ。とら。う。へ。し。ざれ。と。駢^{ヘン}擲^{テツ}篇^{ヘン}は。格^{キョク}
 あり。とんぬ。と。魚^{イサ}好^{コト}が。中^{ナカ}ま。よ。あり。あり。

一 志^シを。も。せ。と。わ。あ。海^{ウミ}と。思^{オモ}ふ。事^{コト}。於^オ
 不^フやう。の。ま。ぬ。い。に。也^ナ。
 一 後^{ノチ}世^{ノヨ}を。思^{オモ}ふ。老^{コノ}の。糖^{ニガ}汁^{シユ}。瓶^{ビン}。一^{ヒツ}つ。あり。ま。
 一 持^テ經^ネ。本^{ホン}。尊^{ソウ}。み。い。ら。う。ま。ご。と。い。ま。ひ。の。ま。
 一 道^{ミチ}。世^{ノヨ}者^{ノヤ}。が。か。う。ふ。こ。ま。け。お。わ。う。な。ぶ。ら。し。
 一 上^{ウエ}。鴈^{ガン}。ハ。下^ゲ。鴈^{ガン}。よ。ま。わ。智^チ者^{ノヤ}。ハ。愚^グ者^{ノヤ}。に。ま。わ。
 一 徳^{トク}人^{ノヒト}。と。分^{ヒシ}員^{ノヒ}。よ。ぬ。能^{チカ}。あ。ら。う。人^{ノヒト}。の。と。能^{チカ}。よ。ぬ。

一 あひて。さ。こ。事^{コト}。の。

一 志^シを。も。せ。と。わ。あ。海^{ウミ}と。思^{オモ}ふ。事^{コト}。於^オ
 不^フやう。の。ま。ぬ。い。に。也^ナ。

一 後^{ノチ}世^{ノヨ}を。思^{オモ}ふ。老^{コノ}の。糖^{ニガ}汁^{シユ}。瓶^{ビン}。一^{ヒツ}つ。あり。ま。
 一 持^テ經^ネ。本^{ホン}。尊^{ソウ}。み。い。ら。う。ま。ご。と。い。ま。ひ。の。ま。

一 道^{ミチ}。世^{ノヨ}者^{ノヤ}。が。か。う。ふ。こ。ま。け。お。わ。う。な。ぶ。ら。し。
 一 上^{ウエ}。鴈^{ガン}。ハ。下^ゲ。鴈^{ガン}。よ。ま。わ。智^チ者^{ノヤ}。ハ。愚^グ者^{ノヤ}。に。ま。わ。

一 徳^{トク}人^{ノヒト}。と。分^{ヒシ}員^{ノヒ}。よ。ぬ。能^{チカ}。あ。ら。う。人^{ノヒト}。の。と。能^{チカ}。よ。ぬ。

香林

三

厨子よたのわ

佛道を承ぐふといふも別乃を好む

ありまにたのわくせの事をんようまぬを
第一れたとひ

けかもあうこどもおやし

糲法純 ぎんだいぬのみそ也純つづばわ

糲粉も糲粉も秦大にもあわ 沙石集よ

大原の僧正 徒生要集をよめれつるを法

然坊春葉坊 睦まをれつる時 善長 妙秦

大瓶一いも 執んごむまぐちと也と 然

坊へりされきこひ 大原僧正 法華の感渡と

かぶされつるも人又 精進魚類物語に 糲法

れとあわ王篇云 糲 息感及以米 糲古 糲文 糲文

よにの成りつるもさこもわ 遁世

ようごうごうと 儒学をせんよめも 法華を

謝上 蔡五經 要語をあつめて 母子に

明道よんきされ 玩物喪志 ことられ 妙法

より汗をすぐし 又よれ 硯と 秘苑

が終り 母子に 硯も 妙法

二程全書よんきつるわ 乃よんごうて 惡衣

本道

三

惡食をしようはるとなり。聖人との交わり。
上臈と。臈の出家しよう者。髪をしようし。授
戒しよう。一復九旬。能く勤行しようを。臈と
云。僧。臈戒。臈是也。僧の位。戒。臈乃前後
しよう。次。しよう也。是しよう。事。れ。次。しよう
を。臈。次。しよう。職。有。極。臈。の。ある。も。位。階。の
名也。然しよう。上臈。下臈。上位。下位。い。らん。が
ご。と。

智者ハ愚者ヨクナリ 史記老子曰君子盛徳
容貌着愚 荀子曰孔子曰聰明聖知守以愚功被天下

守之以讓。勇力撫世。守之以怯。富有四海。守之以謙。世所謂
挹而損之之道也。

通鑑曰。論語曾子曰。以能問。於不能。以多問。於寡。有若無。
實若虛。犯而不校。昔者吾友嘗從事於斯矣。唐太宗
問世儀於給事中孔穎達。穎達具款其義。以對。且曰。
非獨匹夫如是。帝王內蘊神明。外當玄默。若位居尊極。
炫耀聰明。以才凌人。飾詐拒諫。則下情不通。取亡之道
也。

佛道を修ふ 禪家に放下着といふ
は。業事ををげようをいふ

げ外はあつし

孟子万章下。孟献子有友五人焉。樂正襄表。牧仲。其三人則予忘之矣。

塘川相國の義男乃たけさ人よりそのことく
たしくふさ老をさのみ給とあり。子基俊はる大煙
にさう。廳勢たこならけり。廳屋は唐櫃に
ごう。とてぞぐく作り改るべさ。の作
まけり。よび唐櫃はど古より傳りて。始をさ
ども。數百年をへらり。累代の公物古弊をもちて。

規模さびるものわしくあつてめられり。故
實は法官等よりこれ其事のまにあり。

塘河はわ國基具公也。久我乃所

包美。たごもりの義也

大理 職原曰。換非遣使。使。信和天皇御宇。天長年中。

初置也。異朝を重し職。昔唐虞代皋陶為生。世大理。周礼

志官之曰。太司寇即世任也。後代置大理寺。本朝又以刑部

省為糾判之官。天長年中。准唐朝置使。廳蓋是大理

寺也。但別當。為宣下職。為衛府人補之。

別當一人。唐名大理卿。夾議已上。元其人也。補世職之人。

必帶衛兵兵衛督世俗說補大理之人可備七德所謂
譜第品量才幹有識近習容儀富有

廳務 廳の檢非違使の政をさうく不也。廳の字
をゆんごうと改めり

廳屋は唐櫃 許状文書を代り入る物
をゆんごうと改めり

和名は韓櫃と改めり
めくく作り うくくく結構ははくくめと
あり

規模 規矩模範あり

けいぼう けいぼう けいぼう けいぼう

をゆんごうと改めり

をゆんごうと改めり

をゆんごうと改めり

をゆんごうと改めり

久我相國は、テシニシマ海よりて水を引く事あり。多るふ。其後
司土器をもちりされ。海がりを海に流す。其の
て。海がりをもちりされ。海に流す。其の

久我相國 雅實

土器のりけと。海に流す。其の

て。海に流す。其の

海に流す。其の

史記 晋世家曰。重耳過衛去過五鹿。飢而後野人乞食。野人盛土器中進之。重耳怒。趙衰曰。土者有土也。君其拜受之。

もよがり 也。素然云。殿とれ。定器を海に

つと云也。昔ハ四位。五位。六位。殿とれ。日給は

めもろ。これを殿と人となつ。其の

盤。著て。食を。其を。其の。盤を。其の。

也。云。其。命。を行。日給。と云。と。ん。

殿。日給。と云。簡。を。其。日給。と云。と。ん。

け。第。南。時。殿。一人。の。名。其。記。也。

海。の。字。鏡。の。字。な。と。長。味。也。

つ。日。本。紀。中。二。卷。の。鏡。を。其。日

れ。ま。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。と。あ。る。

ば^{カキ}魚^{ヨシ}公^{コウ}もト部^ト魚^{カキ}使^{トモ}鏡^{カミ}は^ハは^ハら^ラる^ルべ^ベなり^リ也

お^カの^キつ^ツら。和名集。金^{カネ}梳^シ。日本^{ニッポン}靈^{レイ}異^イ記^キ其^シ器^キ皆^ゼ鏡^{カミ}

俗^{ソク}云^ク賀^カ奈^ナ万^{マン}利^リ。今^{イマ}按^オ鏡^{カミ}字^ジ所^{シヨ}出^デ未^ミ詳^{セウ}。古^コ語^コ謂^{イハ}梳^シ為^ニ磨^マ利^リ。頃^{キョウ}用^{ヨウ}金^{カネ}梳^シ二字^ニ也^也。梳^シ即^ニ盤^{ハシ}字^ジ。

ま^マあ^アと^トど^ドの^ノあ^アと^トい^イら^ラん^ン事^シ。又^{マタ}お^オが^ガつ^ツの^ノあ^ア

或^シ説^{セツ}貝^{カイ}を^ヲし^シら^ラせ^セ作^サら^ラす^ス飲^{イン}器^キを^ヲま^マり^リが^ガら^ラと^ト云^ク。

奥^{ウチ}列^{レツ}を^シ田^{テン}舎^{シャ}と^シも^トあ^アら^ラと^ト云^ク。

或^シ人^ニ任^ニを^シ長^{チヤウ}れ^レ節^{セツ}會^エ乃^ハ由^ユ辨^{ベン}を^ツつ^ツも^モの^ノ所^{シヨ}也^也
ふ^フ由^ユ辨^{ベン}の^ノも^モら^ラと^ト云^ク。宣^{セン}令^{レイ}を^ツつ^ツも^モら^ラと^ト云^ク。堂^{ドウ}と^シ辨^{ベン}

所^{シヨ}也^也。よ^ヨけ^ケら^ラと^ト云^ク。幾^{キヤウ}ハ^ハま^マり^リと^ト云^ク。な^ナき^キ失^{シツ}禮^{レイ}を^レれ^レも^モ云^ク。

と^ト云^ク。さ^サに^ニも^モあ^アら^ラは^ハら^ラひ^ヒわ^ワら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。

由^ユ礼^{レイ}康^{カウ}綱^{コウ}衣^イる^ルさ^サの^ノ女^メ房^{ボウ}と^シも^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。

を^ヲも^モら^ラと^ト云^ク。あ^アら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。

任^ニ大^{ダイ}臣^{シン}の^ノ節^{セツ}會^エハ^ハら^ラと^ト云^ク。節^{セツ}會^エと^シも^ト云^ク。階^{カハ}の^ノも^モら^ラと^ト云^ク。

西^{セイ}に^ニら^ラと^ト云^ク。接^{セツ}て^テ以^ヒて^テ也^也。是^シ而^ニ礼^{レイ}の^ノ義^ギ也^也。

由^ユ辨^{ベン}其^シ日^{ニチ}れ^レ一^{イチ}の^ノ所^{シヨ}也^也。

宣^{セン}命^{メイ}時^シの^ノ大^{ダイ}由^ユ礼^{レイ}と^シも^ト云^ク。

卷^{クワン}上^{ジョウ}は^ハ京^{キヤウ}宸^{シン}殿^{テン}へ^ヘの^ノ儀^ギ也^也。

失^{シツ}禮^{レイ}と^シも^ト云^ク。あ^アら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。ら^ラと^ト云^ク。

六位の外記 少由記と云ぬ人あり

康綱 中京 康綱正六位上。推大外記。歷德治以

来五代後中位下。日向守海重尚男。德治年中。改

姓中京

大由言光忠入后遊離れと云をつとめりけり。洞後右大臣長屋。弟を中。穉れまじり。又男と師とす。よりの外。の賢覚と。いそその。終ひ

ころ。れ又あ。の老。う。街。ま。れ。く。事。に。ま。れ。く。考。も。て。ぞ。ま。け。も。近。侍。殿。無。傳。一。終。ひ。を。お。附。執。を。わ。し。も。て。外。記。を。め。ま。れ。た。れ。の。失。こ。は。て。い。ろ。ろ。先。執。を。め。ま。は。へ。く。や。い。ら。ん。と。志。の。び。や。ふ。つ。あ。や。た。ろ。ろ。い。や。め。り。う。ま。け。り。と

大由云 異中は平太由らとあり

追催 催囊何反又乃多反。う。く。ら。よ。ん。て

た。ゆ。の。事。文。類。聚。云。昔。額。項。氏。有。三。子。一。而。為。疫。鬼。

一居江水中。為瘧鬼。一居若水。為胃兩感鬼。一居人宮室。中

隅中。善言。馬。小兒。為。小鬼。於是。以。歲。上。月。余。祀。官。時。僕。以

索^{ソク}字^ジ而^ニ馳^チ疫^イ鬼^キ焉^ヤ東^{トウ}海^{カイ}度^{タク}索^{ソク}山^{サン}有^リ神^{カミ}茶^チ樹^{ジュ}野^ノ壘^{レイ}神^{カミ}
以^テ御^ミ示^シ凶^{キウ}鬼^キ為^シ民^{ミン}陰^{イン}害^{ガイ}因^テ制^ス馳^チ儼^{ゲン}之^ノ神^{カミ}重^シ久^ク先^{セン}臘^{ラク}百^{ヒャク}大^{ダイ}
儼^{ゲン}謂^フ疫^イ 呂^ロ氏^シ春^{シュン}秋^ク云^フ前^{ゼン}歲^{サイ}百^{ヒャク}鼓^コ馳^チ鼓^コ馳^チ疫^イ痛^{ツク}

洞^{トウ}院^{イン}の^ノ末^{マツ}大^{ダイ}長^{チヤウ} 實^{サチ}泰^{サイ}公^{コウ}又^{マタ}号^スほ^ホ山^{サン}本^{ホン}
次^ジ弟^{テイ}を^ヲ禱^{カヒ}れ 追^{ツイ}儼^{ゲン}と^ト行^{ユク}み^ミ也^ヤ

又^{マタ}五^イ郎^{ロウ}男^{ナリ}
博^{ハク}と^ト博^{ハク}の^ノ被^ヒ官^{クワン}火^カを^ヲく^ク物^{モノ}也^ヤ
軾^{シヤク} 名^ナ目^メお^オよ^ヨ勝^{シヤウ}突^{ツキ}と^トあ^アり^リ小^コ半^{ハン}思^シは^ハす^ス
を^ヲら^ラる^ル和^ワ名^ナ軾^{シヤク}と^ト車^{クルマ}前^{マエ}を^ヲら^ラる^ル車^{クルマ}也^ヤ

我^ガみ^ミと^トあ^アり^リ然^{シカドモ}い^ハひ^ヒび^ビび^ビと^トあ^アり^リが^ガす^ス
火^カ毎^{マイ}と^トあ^アり^リひ^ヒら^ラぐ^グ 凡^{ソドモ}の^ノ也^ヤ
此^{コノ}火^カ乃^ノと^トあ^アり^リ清^{セイ}つ^ツ物^{モノ}を^ヲく^ク思^シ
和^ワ名^ナ助^{シュ}鋪^ポと^トあ^アり^リも^モび^ビび^ビと^トあ^アり^リ也^ヤ
如^ニ博^{ハク}屋^ヤ也^ヤ

大^{ダイ}覺^{カク}寺^ジ殿^{テン}と^トあ^アり^リ人^{ヒト}の^ノ名^ナぞ^ゾと^トあ^アり^リ
忠^{チュウ}守^{シュ}と^トあ^アり^リ也^ヤ
我^ガの^ノ者^{モノ}と^トあ^アり^リ也^ヤ

えぬ忠孝のれをさうくよさるれにけりとも唐紙
子さしめたるはあつれなきはらへらしてさうて
けり

大なる殿 ぼろの殿也

くも忠守 丹家康頼十世忠守典薬頭内

院 昇殿。哥人。正四位下

公明 侍従ハ兼官也 正親町 三少庶流也

かぎりく 断の字あり。玉篇謎 珠切也

かゝ親子 平氏忠盛の義也忠盛ハ清盛ハ父

也さすやうのる音釣ののよあゝぬ唐地

忠盛の平氏也 耶々親子也 平氏者相通

しるあゝ平家物語もお常の侍所也

いづらしうあるわしらへ 藤谷れ會合に

るいづらもきたるるのらびとららるあ

り凡謎子ら日本よしししらららひはくら

院よししうくあらうとらららららららら

かきりもろろろらららららららららら

乃都のり 夫謎の隠語とも 瘦詞のり

いさだ徳よしあらららららららららら

し史記の滑稽傳漢書に東方朔が説合人

門カドくちしつゝあまのつらきつらき車クルマのまじり
 法トキ倍トキれ人のまじりしるまじりしるまじり
 いづれもいづれもいづれもいづれもいづれも
 ちよとれいづれもいづれもいづれもいづれも
 こいよのまじりしるまじりしるまじり
 あまのまじりしるまじりしるまじり
 いづれもいづれもいづれもいづれも
 明アカのれもいづれもいづれもいづれも
 まはのまじりしるまじりしるまじり
 傳ニらるゝまじりしるまじりしるまじり

軒イ路チの櫓コもなまじりしるまじりしるまじり
 月ツキづりたあまのまじりしるまじりしるまじり
 志シ出デて櫓カのまじりしるまじりしるまじり
 もん送ツクち路チのまじりしるまじりしるまじり

はづか事コトあるはづか事コトのまじりしるまじり
 あつ人ヒトとあつ人ヒトのまじりしるまじり
 ぶあま人のまじりしるまじりしるまじり
 色イロ好コトう自コト託カしるまじりしるまじり

こいよのまじりしるまじりしるまじり
 俄トキあまのまじりしるまじりしるまじり

くらめらる白ひまも
 門くちりてよ 由居くらぬ新よひ村の國也。
 雨もぞちり 雨くちらるせうすらんとも也
 こよひぢやもたつらぬうもる こよひかんやもね
 ぬまもあもともてゆたふたらぬ也
 兼あつらまの 兼あつらまのなやうく 一書鶴鳴
 ひまもちり ぬまもたつらん也 赤屏賦よ 東方
 うとわり
 桂木の人なむらうらう。こよひあまのゆめもあつらま。

兼あつらまのなやうく 一書鶴鳴
 ひまもちり ぬまもたつらん也 赤屏賦よ 東方
 うとわり
 桂木の人なむらうらう。こよひあまのゆめもあつらま。

兼あつらまのなやうく 一書鶴鳴
 ひまもちり ぬまもたつらん也 赤屏賦よ 東方
 うとわり
 桂木の人なむらうらう。こよひあまのゆめもあつらま。

お乃屋うきよの淵のこちうは雪力くさうかち
 兼あつらまのなやうく 一書鶴鳴
 ひまもちり ぬまもたつらん也 赤屏賦よ 東方
 うとわり
 桂木の人なむらうらう。こよひあまのゆめもあつらま。

兼あつらまのなやうく

ひまもちり

男。あしき心をもて、聖なるを壊し、わがが聖
 いふところをわがところとせしむ。希にわが根籍を
 四部なり。比丘よりわが比丘よりわが比丘とてはなす。比
 丘尼より優婆塞より優婆塞より優婆塞より優婆塞
 婆夷なるをわがわがのわがの優婆夷なるを
 わがより比丘をわがのわがのわがのわがのわがのわがの
 行なりといふれ。わがのわがのわがのわがのわがのわがの
 せしむ。わがのわがのわがのわがのわがのわがのわがの
 なる。わがのわがのわがのわがのわがのわがのわがの
 わがのわがのわがのわがのわがのわがのわがのわがの
 わがのわがのわがのわがのわがのわがのわがのわがの

思ひ心をもて、多て馬ひ心をもて、わがのわがのわがの
 くらたうとくらたうとくらたうとくらたうとくらたうと

根籍 藉は踏也 根の物をみらるるなり

みざれらるる也 漢書にみざれらるる也

四部の中子 法華經に比丘尼は優婆塞に優婆夷

翻譯名義集第一比丘名比丘士清静居士故又曰名含義

一破惡怖魔三比丘又翻云除餘比丘居通稱安為尼居得

無量律儀故應改比丘又稱阿姨優婆塞名信士男優婆夷

名信士女又云清淨士清淨女雖在若家持五戒男男女不同宿

故云善宿男女

白殿の御子も御きて安堵の後のよく教りしを
 にはたさるるおよ。御親なるものよ。いと人の伝
 られしうらとや。山階た夫長なるあや。あは
 女はんちも御よ。うらうら。心ばうひを。あくと
 了。おあやも。あはれ。まの女のおよ。あはれ。あはれ。衣
 又も冠も。うらよ。あはれ。ひも。はく。うら。人。侍。
 か。人。も。あはれ。うら。うら。女。あ。うら。あ。い。み。あ。あ。あ。
 思。う。女。の。性。の。皆。い。あ。あ。人。我。の。相。う。あ。貪。
 欲。甚。く。物。の。理。を。あ。う。う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 け。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

出

ぬ事な。よ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 又。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 とも。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 志。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 女。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 女。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ま。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 け。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

志れら女房 ざれら女也

堀川の内大臣 具守公也号岩倉内大臣

堀河内大臣 具守 基具 具守 後二大臣

浄土寺前関白 九條殿師教号号巴心院又号

浄土寺元應二年正月七日薨四十四歳

安嘉の後後堀川院女御浄土寺大政入道公房公

とれ女也

山階の女房 實雄實氏公の弟西園寺

一家滴院

あく人よらら女 是より一轉て女

女のいづれ事と云

人我の相つく

藏乘法教云般若四相

我相一執取自体
人相一數取餘趣
象生相一種々變異相續
壽者相一報命根不斷

す陰れむ人好くはく志れら女房

あつらふを好くあつてなきこころ人のいづれ

いづれと云はぬ是をいづれと云はぬ

幾人をおもひたる人におもひたる人におもひたる人の一銭も
まじりぬ地也。剝地おぼしむる人の心におもひたるは
こびりやまじりぬ。心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
一念におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。

しておぼしむるの心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。
まじりぬ人の心におもひたるはこびりやまじりぬ。

禁煙

寸陰於也 世南子曰。取人不可貴。尺璧而重寸

之陰。時難得而易失也。

晉陶侃曰。禹惜寸陰。人可惜分陰。

あれくともさるり 理を知りて老後を惜ぬる。

一日れらら飲食 存子盜路篇。人上壽。百歲中。

壽八十。下壽六十。除病瘦死喪。真患其中。閉口而笑者。

月之中。不過四五日而已矣。天与地無量。人死者有時。操

有時。具而託於無窮之間。勿心然。無異騏驎之馳過隙。

也。不能說其志。意養其壽。余者皆非通達者也。

我今受けける今日の日。身をいよむ。けり。牛
羊。れ。多。く。ふ。し。似。ら。る。無。益。の。事。を。し。て。生。け。り。
如。く。は。ら。枉。過。一。生。蟻。旋。塵。と。云。ふ。似。ら。る。
謝。靈。運。は。法。華。に。筆。り。受。

南史。謝靈運。幻穎悟。文章之美。与親廷。為。江。左。第。一。世。

稱。親。謝。与。族。弟。惠。連。為。刎。頸。交。每。對。之。輒。得。佳。詔。嘗。於。

永嘉。西。堂。思。詩。不。就。忽。夢。惠。連。即。得。池。塘。生。春。草。一。句。

向。常。云。此。語。有。神。助。宋。元。嘉。中。為。永嘉。守。郡。有。名。山。水。

殊。意。遊。遊。尋。山。涉。嶺。必。造。幽。峻。登。蹊。常。着。木。屐。上。山。

去。前。嵩。下。山。去。後。嵩。与。何。長。瑜。等。為。四。友。字。客。兒。

魏父爵封康樂公世稱謝康樂

通鑑綱目曰宋元嘉六年謝靈運有罪誅靈運好為

山澤之遊從者數百人伐木開徑百姓驚擾或表其有

異志靈運詣瀾自陳上以為廣川內史靈運遊放身若

為有司所糾遣使收之靈運執使者與兵逃逸作詩

曰韓云子房奮義秦帝魯連耻追討擒之上表其不降

死徙廣陵已而棄市

三休詩黃滔遊東林寺詩翻譯如曾見百蓮新滿池

詩庐山記謝靈運即東林翻涅槃經曰鑿其屋植蓮池

中詩意謂見白蓮猶見靈運

正法華添品法華。芬陀梨法華。妙法華。於

どしておるれ翻譯あれも靈運う右のあつて

了譽も。其運法華れ執筆ありといふされり譽

も。其好しとほの母の人あれはしておぼつら

しれせよ行りつゝ妙法華の音の羅什乃翻譯

て其弟子僧睿う筆受あり。天竺梵語と唐土

よて通事すうの翻譯といふれを唐字よるに

うつしと筆受と云涅槃經の靈運筆受也。

淨土宗れり譽う直牒の弟九。惠遠法師衆を

あつた四十八日念佛と行と深明靈運其に

あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに
あまのこころをいかにいかに

高僧傳 晉惠遠見戸峯清靜足息始住龍泉精舍
刺史桓伊乃為遠於山東立房殿即東林也絕塵清勝之
賓並不期而至彭城劉遺民豫章雷次宗烏川周續之

新蔡畢穎之南陽宗炳等凡百有二十三人並棄世遺業
依遠遊止 戸山記遠法師居戸阜三十餘年影不出山
跡不入俗送客過虎溪虎輒鳴號昔陶元亮居栗里山南陸
脩靜亦有道之士遠師嘗送此二人與悟道合不覺過之因
相与大笑今世傳三笑圖

三体詩註云高僧傳劉遺民雷次宗等依遠公於戸山
遠於精舍无量壽像前建南三社期生西方陶元亮訪
遠公問鐘有省擯眉而去

事文類聚前集云謝靈運求入淨社遠師以心難止
范甯在豫章遠師請入社范不從後

序草雜記。遠師結白蓮社。書招陶明。陶曰。房子性嗜
 酒。若許飲。即往矣。遠許之。遂造焉。因勉令入社。陶擢眉雲
 嵩。冲靈抄書記。謝靈運。歿遠公社。遠公拒之曰。子髮纒
 而鬚。義面与身。房非令終。相請多行。陰德戒飭。三年而
 後。可靈運。怒曰。學道在安。以貌耶。遠笑而不答。後靈
 運果如遠所料。盧循及遠与之执事。言笑知人。鑑何明
 於靈運。而瞻於循。如世耶。 黃子耕。乞謝靈運墓
 詩曰。心難雜。難為蓮社友。翻經肯与俗。流通可憐一
 對。 登山履。埋在地塘芳草中。

謝靈運詩集卷之五 謝靈運詩集卷之五

風雲之思。 靈運風月を吟詠しつゝその
 みよあつとも漢江二十八將を風雲乃將とつて
 とく龍吟虎嘯の心ありて時の勢小乘して功名
 を立んとおこふ義也

謝靈運の晋に謝奕の孫にて文章の妙なり
 然も宋乃劉裕の代をうばはるるその
 まはてて官位をけりてついでに遊山
 翫水して民をくつゝひをなほおこし
 ひて謀反をしつゝついでに宋の君靈運

をうらつんとしてる時、紙よ兵をぬつては晋の
 女よ仇としてしん事、張良が韓のために
 しろくもくもんとみつてつとどどよ
 宋もつてこれいかに張良があつてよ
 何ぞいんやほつて、天運こつてまらあつた
 もの、例の晋の徳逃して満向は、風
 采乃年をとりつて我らよんつてあつたり
 のまさは、師は二人をよくかつて事、備と
 奇物よはつて遠師もたは、人よあつて、備
 中の英俊あり、佛經のせよ、わつたつても

何れも、早二章、練るもの、よびひつた縁
 業をもの、よつて、支道僧、摩訶
 花老は、肺肝を、廣長、吾れ、根本とよみ
 吾道とよみ、よつて、方寸に、あつた守
 得て、あつて、しんを、あつて、人を、あつ
 事、よつて、あつて、あつて、あつて、あつ
 て、あつて、あつて、あつて、あつて、あつ
 師よ、天運を、あつて、あつて、あつて、あつ
 是又、あつて、あつて、あつて、あつて、あつ
 乃よ、引いて、あつて、あつて、あつて、あつ

淵明ハ餘行を修せしといふべからんぞ淵明の事
 事の井底丹蛙ツヅなりや淵明ハをうつらむびり
 登をうつらむびり淵明をうつらむびり
 退るるらちのまき若たれは庐山セはたれし
 柳下惠カがわづらをげむは韓退之カンが衣
 をせむびりんるし靈運リョウが蓮社レンよりんと
 求るモト賈王キョウ智度チが鉄衣テツをぬきく僧衣ソウを
 きふは印インるべし富貴フクキをぬきふんフンと
 ちげしむびりもはむしりく一旦イツが外ガイのまき
 しくんとしりむらもも人ヒトを遠師エンシ志シ

ひひりありきこひりきこひりありきこひり
 飲酒インジュ戒カイをやがり虎溪コシキの橋ハシとよむして三笑サンセウ
 け石イシあれと淵明エンメイのほよ骨ハネと擲チクてゆめを時トキ
 するん又遠師エンシがまきつらよあむびり
 了リョウ登トウうらむしり淵明エンメイのまきくを智チ利リ念ニ佛ブツ
 したる人ヒトのつらんむしりをうつらむ
 了リョウ登トウうらむしり淵明エンメイのまきくを智チ利リ念ニ佛ブツ
 事コトたすし時トキの死人シニジンのつらんむしり
 止トメん人ヒトの止トメ修シュもん人ヒトの修シュをうつらむ
 止トメる止トメ觀カン修シュの修シュの也ヤ是シ觀カン行キョウのつらんむしり

可保也

鞠もつらむと蹴もつらむ

韻會。鞠、居、切。説文。蹋鞠也。徐按。蹋鞠以革為圖囊。

實以毛髮。説文。蹋鞠為戲。亦曰蹋鞠。古今注。黃帝習兵之執。

劉向別錄。蹋鞠。世宗帝造以練武士。或云。起戰國。漢霍去

病傳。穿域蹋鞠。注。服虔曰。穿地作鞠室也。

双六の上とびとひり人よまろ行ともひり
いぢらんといつべしとひりまげとつべしと

いぢれのみろくも負ぬむと案してし
をつらむとつらむとつらむとつらむとつらむと
けふとつらむとつらむとつらむとつらむとつらむと
保んるもつらむとつらむとつらむとつらむとつらむと

双六 説文。博、局、戲、六、着、上、其、奈、古、者、鳥、曹、作、博、尹、文、子、

曰。博、盡、閑、塞、之、宜、得、周、通、之、路、聲、譜、云、博、陸、米、名、也、陳、

思、王、制、双、陸、局、置、骰、子、三、至、唐、末、有、葉、子、之、戲、未、知、誰、

置、遂、加、骰、子、三、至、六、骰、合、作、投、投、擲、之、義、今、作、骰、非、

道とつらむとつらむとつらむとつらむとつらむと
羊とつらむとつらむとつらむとつらむとつらむと

たきしり事とさしちの錫とさしり事と定て國を
を治るるは志ある事とさしり事と定て民を
おさしりてさしり事とさしり事と定て民を
さしり事とさしり事とさしり事と定て民を
は事ゆといふを武とさしり事と定て民を
めんといふを武とさしり事と定て民を
北宮黜孟施舍の勇とさしり事と定て民を
見は法よりさしり事とさしり事と定て民を
中華并は四夷の双陸と載さしり事と定て民を
國の双陸とさしり事と定て民を

圍碁双六好くあしりす人ハ西を好む遊ハ由
はも此悪事と我らとあつひびくのりし
事耳にやうもあつひびくのりし

圍碁 博物志堯造圍碁以教子丹朱或云舜
以子商均愚故作圍碁以教之其法非智不能也
論語陽貨篇飽食終日無所用心難矣哉不有博奕
者乎為之猶賢乎也 孟子博奕好飲酒不

顧父母之養ニ不孝也

四重五逆 四重はめ戒の内飲酒を除く殺盜
淫妄を云律は波羅夷罪を云唐は斬頭罪と

陸奥止巻七

也。人の罪とさしむる報いほむとさしむるに
四重罪と犯せる懺悔しつゝ滅せざり也

五逆罪の殺父殺母殺阿羅漢破和合僧出佛身
血

うれ因基れ道の荒蕪の時よりあまのいひ傳
ふまじと傳へしつゝあまのいひ傳へしつゝ

因基とて河内國の教ありとてまじの教あり
考はらうしつゝあまのいひ傳へしつゝ

胡且もやとてんるとしてこれ聰明なる者
とてつゝいふ事とてつゝいふ事とて下愚小人とて

かりありとてつゝあまのいひ傳へしつゝ也。聖人の

いふも博奕とてつゝあまのいひ傳へしつゝ
とあるとて終自づつとてあまのいひ傳へしつゝ

あまのいひ傳へしつゝあまのいひ傳へしつゝ
奕と人よとてつゝあまのいひ傳へしつゝ

用つ事とて老の罪をありとてつゝあまのいひ傳へしつゝ
うらにをのつゝ博奕をいふとてつゝあまのいひ傳へしつゝ

あまのいひ傳へしつゝ

乎。史記。主父偃曰。昔日暮途遠。故倒行暴施。蹉跎。韓非子。吾立息其蹉跎。詩。不遂其意。韻會。蹉跎。失時也。百跌也。異本。蹉跎。何。班固。

信を多思ふ。礼義を多たかり。

莊子盜跖篇。比干剖心。子胥抉眼。忠之禍也。直躬證父。尾生溺死。信之患也。鮑子立乾。勝子不自理。廢之信也。孔子不見母。匡子不見父。義之失也。世之所傳。下世之所誦。以為士者。正其言。必其行。故服其殃。離其患也。

此後。魚好。うぬび。に。佛。光。の。餘。痛。也。彼。信。を。も。て。小。節。と。し。礼。義。を。も。て。末。事。と。し。り。好。ま。一。大。事。れ。根。本。に。法。法。を。れ。法。縁。と。す。と。世。俗。に。毀。譽。を。ん。よ。め。く。べ。く。び。と。也。儒。者。れ。ん。あ。尾。生。が。し。く。か。り。信。を。ま。さ。し。り。て。君。子。の。孫。あ。ら。ば。と。云。大。人。の。言。必。信。あ。ら。ば。と。云。遊。礼。の。礼。遊。義。乃。美。我。を。と。び。い。い。と。う。れ。あ。ら。る。と。歸。よ。か。り。あ。ら。ま。小。通。を。ぬ。馬。人。と。い。い。め。し。り。と。あ。れ。め。あ。ら。忠。信。を。ゆ。り。し。と。礼。義。を。思。つ。べ。し。と。乃。よ。い。と。ん。や。仁。義。礼。樂。を。駢。梅。贅。疣。と。

一々人れ天性^{セイ}おわらざる^{サツ}性^{セイ}の^レ痛^{ツク}し
 更^タめ^ニづ^クし^レか^レし^レど^レも^レ道^{ミチ}ぬ^ル業^ノし^レ人^ノの^レお^ノて^セ
 り^もて^あら^ずい^ふ道^{ミチ}ぬ^ル業^ノし^レ人^ノの^レお^ノて^セ
 ひ^もて^あら^ずい^ふ道^{ミチ}ぬ^ル業^ノし^レ人^ノの^レお^ノて^セ
 こ^のと^りと^あら^ずい^ふ道^{ミチ}ぬ^ル業^ノし^レ人^ノの^レお^ノて^セ
 毀^クとも^くく^く一^一ゆ

而^レ不^レ知^レ勸^レ率^テ世^ヲ而^レ不^レ知^レ沮^レ定^ニ乎^ニ内^ノ外^ノ之^ノ分^ヲ辨^ス乎^ニ
 宋^ノ厚^ク境^ノ斯^レ已^ニ矣^ニ

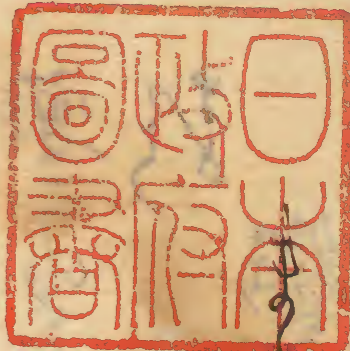
庄子逍遥游率世而誉之
 宋厚境斯已矣

一々にあまのあつらひ人たむかひていひおほひの
 ばしきものびてあんないづかきとていひおほひの
 男女の事。人のうらやまのいひおほひの
 たのん昔々いふたのいひおほひの
 老人のわらひ人たむかひていひおほひの
 いひおほひのいひおほひのいひおほひの
 庵ぞらるるいひおほひのいひおほひの
 宴のいひおほひ人はいひおほひのいひおほひの

饗^{キヤウ}應^{オウ} ^{アルニス} ^{オハシ} ^{シノヒモ}
 あらうとあり ^{ハシ} ^{シノヒモ}
 八重の倉物

聖德太子卷七

皇太子



Handwritten text in cursive Japanese (sōsho) style, consisting of approximately 10 lines of characters.

